クロスロード新聞

第7 号

2006年11月29 日

速報！ファシリテータの集いが開催されました！

発行元：108-8345　港区三田2-15-45
慶應義塾大学商学部　吉川肇子研究室内
クロスロードサポーター事務局

ファシリテータの集いが開催されました

2006年11月19日(東京会場）と、11月23日(大阪会場)で、クロスロードファシリテータの集いが開催されました。そのときの様子を速報いたします。

東京会場では、高知県から小溝智子さんに、高知県でのクロスロードの展開が紹介されました。次に、静岡県の板坂孝司さんが、独自のゲーム運営方法についてご紹介いただいたほか、警戒宣言を念頭においた「東海地震編」の作成が進められていると報告くださいました。静岡大学小柳さんから「静岡大学版」が紹介されました。この後、「要援護者編」など新作問題を使った体験コーナーやフリー討論がありました。健康リスクや食品リスクの専門家にご参加いただいたこともあって、他分野での活用可能性についても議論が活発に行われました。

大阪会場も、中身の濃い会合でした。まず、「クロスロード」のふるさとである神戸市の柿本雅通さんから、次に、林国夫さん（呉市）から、消防での活用事例や、「ぼうさいダック」の活用事例などを話していただきました。今西剛也さん（高知市）からは、DIGとクロスロードとをコラボレーションさせるユニークな試みについてご紹介いただきました。また、友永公生さん（黒潮町）は、デイサービスの場で、地域の高齢者の方々と取り組まれている事例について報告されました。

問題が違っても、クロスロードコミュニケーションできるという実感をもてたことは、主催者としてこの上ない喜びでした。参加された皆様に改めて感謝申し上げます。

これら2回の集いの詳細は次号でご報告いたします。また、会場でお約束しましたファシリテータの皆様への新しいサービスについてもお知らせします。どうぞご期待ください！

東京会場：議論も白熱しました(詳細次号！）

呉から！熊本から！

高知県、神戸市をはじめとして、「K」で始まる地名にご縁の深いクロスロードですが、このたび呉市の林さんから女性消防職員の方を対象にされた研修会の様子を、また熊本県の黒瀬さんから新型インフルエンザの流行に備えた研修会の様子のご報告を、それぞれ投稿いただきました。

消防職員の研修会の様子の写真も送っていただきました。本文は、2ページからです。読むべし読むべし！

せーので、意思表示！

目次

ファシリテータの集いの開催速報　1
呉から！熊本から！　1
女性消防職員がクロスロード　2
進級者発表！　3
こんなところに心理学(8)　3
千里の道も一歩から　3
新型インフルエンザ研修　4-5
クロスロードドイツでの様子　6
クロスロード新聞の記者達　6

クロスロード次号のご案内
発行予定日：1．8．
新年はクロスロードとともに。。。クロスロードファシリテータの集い詳報！

責任編集

- チームクロスロード
- クロスロード・サポーター
- SPECIAL THANKS:
  高知県危機管理課
  小溝智子（漫画企画）

女性消防職員を中心とした交流会でのクロスロード

― 災害時の判断力養成，災害教訓の継承に“クロスロード”は非常に有効である ―

６月１７日，神奈川県民ホールにおいて，女性消防職員を中心とした全国規模の交流会が開催されました。仕事を進める上での女性特有の悩みを共感し，また，課題の解決策を共有するために，情報交換や意見発表などを行いながら交流の輪を広げ，成長していくことを目的とした交流会で，全国から約１６０名の参加がありました。

この交流会には４つの分科会が開催され，その一つの「警防（消火や救助）」という分科会において“クロスロード”を実施しました。前年度も，この警防分科会でクロスロードを展開し，非常に好評（！）だったためか，今年度は２倍以上の５０名の参加があり，色々な課題に対し，熱心に討論が行われました。

クロスロードへの導きはオリジナル問題から

“クロスロード”のルール，楽しさを説明するには，まず自分達の分野のオリジナル問題から入ると，すぐに醍醐味を覚えてもらえます（一般編2005なども）。

「あなたは･･･はしご車の機関員

耐火５階建，５階部分が延焼中の建物火災。屋上には赤ん坊を抱いた母親が泣き叫びながら助けを待っている。出火室の隣室にも若い男性が煙にまかれている。屋上の母子を優先する？

YES（災害弱者優先）or NO（リスク優先）」

この問題は実際にあった事例を基に作成しています。私は，女性が中心のため，我が立場としてYESを挙げる人が多いと予想したのですが，意外にもNOを選択した方のほうが多かったです（青・赤カード一斉表示方式）。もちろんリスク優先は消防活動の原則ですが，YESを挙げた人からは，「屋上にも延焼の危険がある」「はしごを５階に架けたとしたら，母親はリフター（はしご車の昇降装置）に向かって子供を投げる」といった意見も出ました。

「屋上への延焼」も，「子供を投げる」というのも実際にあったことで，煙と熱にまかれ，「もうダメ」という状況では，「僅かな可能性にでも，すがるのが親」ということを，女性の立場からお話しして頂きました。会場の皆さんもこの事例には熱心に耳を傾けていました。

男女共同参画・職員教養にも最適なクロスロード

消防の世界での“クロスロード”は，年令，性，階級，経験にこだわることなく，自らの意見を述べることができ，楽しみながら，課題の抽出・問題解決への提案が「しっかりと」話し合えることです。午前中の基調講演で，総務庁消防庁総務課長から「男女共同参画型社会の形成に向けて」と題し，消防庁の男女共同参画実現のための重点施策が語られたのですが，このクロスロードはそういった視点からも非常に注目されました。また，災害現場での判断力の向上や経験の継承といった観点からも，クロスロードは非常に有効な手段であると言えます。

災害福祉と女性消防職員

また，この分科では，災害時要援護者版も実施しました。これは女性消防職員が今後，「災害時要援護者の方々と消防行政の接点」を担うであろうと言われているからです。福祉局との連絡調整，福祉局や民生委員さんとのリスト共有の問題には女性同士の話し合いがスムーズにいくであろうし，さらには，実際に要援護者の方に避難して頂く際，女性消防職員特有の優しさを持ち避難を促すことは，要援護者の方々にとって，（男性のそれと）全く違うものであろうと言われています。

参加者からの嬉しいコメント

参加された女性消防職員と，取材記者のコメントが“クロスロード”の面白さを伝えてくれていますのでご紹介します。

「警防分科会，有意義でした。大抵グループに分かれて話をすれば，グループの意見をまとめることが当たり前だったのに，クロスロード手法スゴイですね。楽しいところがいい！」（九州地区）

「警防分科会とても楽しかったです。警防分科会選択してよかったです！クロスロード勉強になりました。頂いた資料（災害時要援護者版）でもうちょっと勉強したいと思います。」（九州地区）

「去年の分科会の様子を見てて，今年は絶対警防分科会に参加しようと思ってました！交流会参加者全体の３分の１ですよね。クロスロードって凄い！職場に帰って先輩達と絶対やります。」（近畿地区）

「消防職員の方に混じって，クロスロードに参加させていただくという非常に貴重な経験をさせていただいたのですが，ＹＥＳ・ＮＯの回答をするときに正確な裏付けはもちろんなく，何でそのカードにしたのか理由を発表する時には非常に困りました。しかし，限られた時間内に判断を下さなければならない時（警防ではそのような機会が特に多いのではないかと思います）や，判断材料が少ないながらも，より正しい、確率の高い回答を瞬時に導き出す訓練をするには，もってこいだろうなと感じました。警防分科会に参加させていただき，普段，記者と消防職員という関係でお話をして頂く時よりもリアルなお話を聞けたことが大変ためになりました。」（東京都）

まとめ

このように，消防職員の教養，災害時の判断力養成，災害教訓の継承には“クロスロード”は非常に有効であると「言い切れます」。“クロスロード”の普及と発展に誇りと責任を持ち，今後もあらゆる機会を捉え，広めていきたいと考えています。

（呉市消防局 林 国夫さん）

速報！
ファシリテータの集いが
開催されました！

クロスロード進級者のご紹介

熊本県健康危機管理課の黒瀬琢也さんを上級に認定いたしました。オリジナル問題も含めて、4ページ以降に実施報告を掲載いたしました。

新型インフルエンザの流行が予想されている今日この頃。皆さんのお住まいの地域での備えは万全ですか?「まだまだ」とお考えの方、是非クロスロードで研修を！

【応募先】108-8345　港区三田2-15-45
慶應義塾大学商学部　吉川肇子研究室内
クロスロードサポーター事務局
電話：06-5427-1251
ファックス：03-5427-1578
メール：kikkawa@aoni.waseda.jp

電子投稿はこちら↓
http://maechan.net/crossroad/toukou.html

こんなところに心理学(8)：計画は倒れる

仕事の締めきり、学生ならばレポートの締めきり、なぜか間に合わないことってよくありますよね。引き受けたときには時間がたっぷりあったのに、、、数日で仕上げるはずだったのに、、、気がつくと今日が締めきりで間に合わない、そんな経験を、多かれ少なかれ皆さんなさっているのではないでしょうか?

なぜ、間に合わないのでしょうか?それには「計画錯誤(プランニング・ファラシー、planning fallacy)」という人間の行動傾向が影響しています。計画錯誤というのは、時間や予算といった計画を実行するのに必要な資源を過小に見積もり、計画の実現の可能性を過大に評価する傾向のことをいいます。「時間はそんなにかからない」「とにかくやれば何とかなる」と思ってしまい、「できる」と思いこんでしまうのです。ところが、やりはじめてみたら、実は思いのほか時間がかかってしまって、間に合わなかった、ということになるわけです。

近い将来必ず来ると予想されている大災害、20年もあれば、備えることはできるかな、と思っているうちに20年たってしまうことがあったらどうでしょう。とても笑い事ではすまされません。計画錯誤の傾向があるために、20年どころか、30年後でも間に合わないかもしれません。つまり、計画は、それを実現するための時間の長さにかかわらず、常に「計画倒れ」な結末に。。。

残念ながら、人間が持つこうした甘い見積もり傾向を改めることはなかなかできません。ただ、できるだけそれを避けるように、いくつかの方法が使われています。

その1つがメンタル・シミュレーション(mental simulation)。スポーツ選手が、試合の前にやりました、とよく言っているイメージトレーニングと同じです。

メンタル・シミュレーションには大事なポイントがあります。それは、結果を想像するよりも、目標を達成するステップを想像した人の方がよい成果を残すということです。たとえば、オリンピックで、選手がメダルを取った自分を想像してがんばった、と言っていることがありますよね。しかし、うまくいったとき、つまり表彰台で金メダルをもらっている自分を想像するだけでは、メダルは取れないのです。メダルを取るためのステップ、たとえば練習の方法など、その段階を順を追って想像することこそが、重要になるのです。

津波がきたものの避難所に逃げ延びた自分を想像するのでなく、避難所に行くためには、助かるためには、何をすべきなのか、段階を追って想像する訓練を、ぜひやってみてください。

千里の道も一歩から

©やなせたかし

新型インフルエンザ対策机上訓練におけるクロスロード（感染症編）の活用

熊本県では、平成１８年１１月２１日に新型インフルエンザ対策机上訓練を実施しました。

新型インフルエンザは、①世界のどこでも発生していないため対策のイメージがしづらい、②保健所や医療機関だけでなく市町村や消防等を含め一体となった対応が必須、③大流行が懸念されるため他地域からの応援が期待できないといった、通常の感染症とは大きく異なった問題があります。

そのため、関係機関に発生時のイメージを持っていただき、今後の対策を進めるために、クロスロード（感染症編）を活用させていただきました。

今回は、その様子をレポートさせていただきます。

なお、机上訓練は、①事前の検討、②机上訓練当日の関係機関との討議、③事後の再訓練という３段階で構成しました。②机上訓練当日の関係機関との討議も、①新型インフルエンザ対策概論、②クロスロード、③机上訓練（シナリオ１・２）という３段階の構成としました。

机上訓練としては、事前にシナリオを送付、検討してもらい持ち寄っていただくということで、新型インフルエンザに対する事前学習を促すとともに、当日の机上訓練をスムーズに行うという形をとりました。

まず、新型インフルエンザ対策についての概要を県から説明した後、クロスロードを実施しました。

今回は、関係機関間の連携を促進するため、２次医療圏ごとに、病院、医師会、消防、市町村、保健所から１名ずつ出席していただき、班を構成してもらいました。

まずは、座布団、イエス・ノーカード、設問カードなどクロスロードのグッズ、ルールの説明を短めに行い、次の問題で参加者の方全員にイエス・ノーカードを一斉に出していただきました。

「新型インフルエンザが大流行。おりもおり、明日重要な会議を抱えた部下が激しく咳き込んでいる。今日中に準備を終わらせる必要があるが・・・。帰宅させる？

YES（帰宅させる）・NO(帰宅させない)」

新型インフルエンザの講義の後ということもあり、多くの方がイエス（帰宅させる）を選んでいたようでした。

この問題について、イエス・ノーそれぞれの問題点や解決方法、状況が変わった場合はどうなるかという視点で振り返りを行いました。

その後、実際に４問ほど各班で実施していただきました。４問は、参加機関に関係があるように、病院長（張り紙）、消防司令（個人防護装備）や市町村保健担当課長（対策検討）の問題や主婦の問題（物資備蓄）を選びました。

クロスノートの説明も簡単に行ったところ、活用していただいていたようで、設問ごとに振り返りを行う班、設問すべてを行ってから振り返りを行う班など様々でしたが、いずれの班でも積極的に振り返りを行っていただいたように感じました。

各班は、前述のとおりいろんな機関からの参加者で構成されていますので、初めて会う方もいらっしゃったのではないかと思いますが、クロスロードにより意見が出しやすい雰囲気となり、活発な意見交換が促されたものと感じました。これは、クロスロードの後に実施した、机上訓練のための布石としても十分な効果がありました。

また、クロスロードについてのアンケート結果は、図1、図2のとおりです。すなわち、「有意義（３３人５８%）」と「どちらかといえば有意義（２１人３７%）」を合計すると９４．７%が有意義と回答されています。楽しさについては、「楽しかった（２２人３９%）」と「どちら

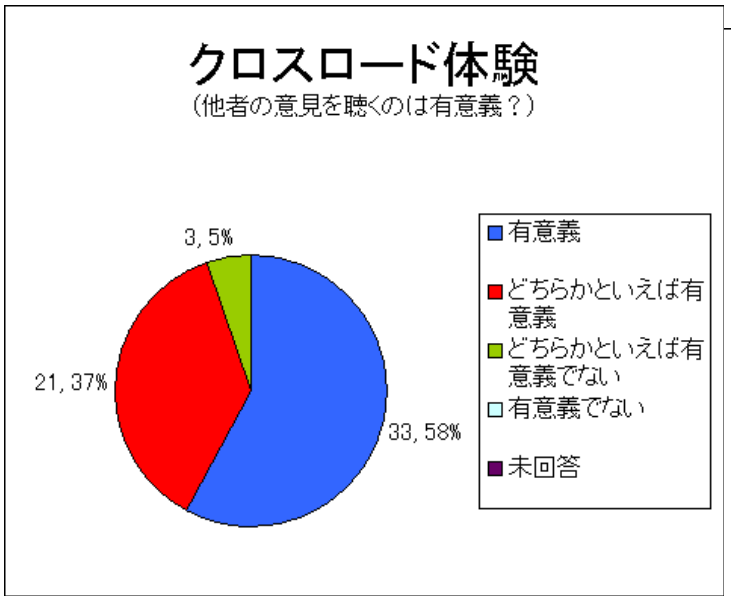


図1　クロスロード体験の有意義さ

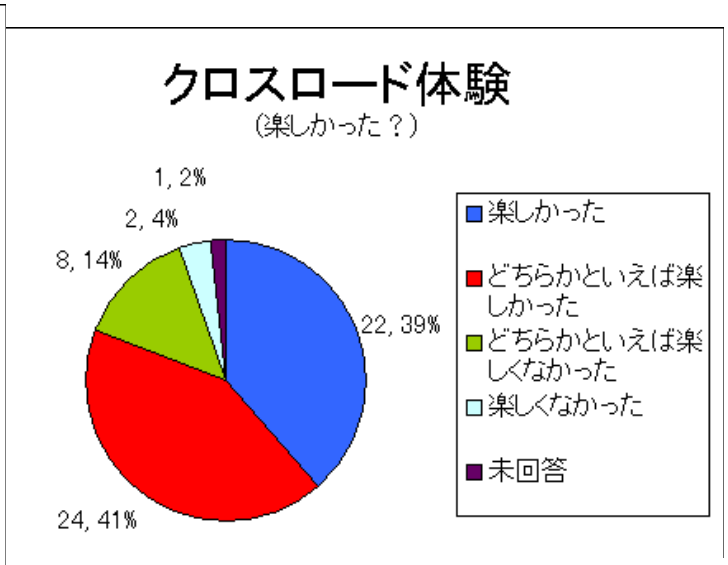


図2　クロスロードの楽しさ

速報！
ファシリテータの集いが
開催されました！

クロスロード感染症編研修（続き）

かといえば楽しかった（２４人４１％）」を合計すると８０．７％が楽しかったと回答されています。「どちらかといえば楽しくなった」と答えた人は市町村の職員が多く、これは他の機関との接点が少なく、イメージしづらかったことに由来するのではないかと考えています。

　机上訓練としては、クロスロード実施後、「新型インフルエンザ大流行時に想定される状況」（シナリオ１）について、予防・準備の視点で検討していただき、その後、より近い危機として「エックス国帰りの小学校教師等がインフルエンザ様症状を訴える」（シナリオ２）について、こちらの方はその際の対応を検討していただきました。

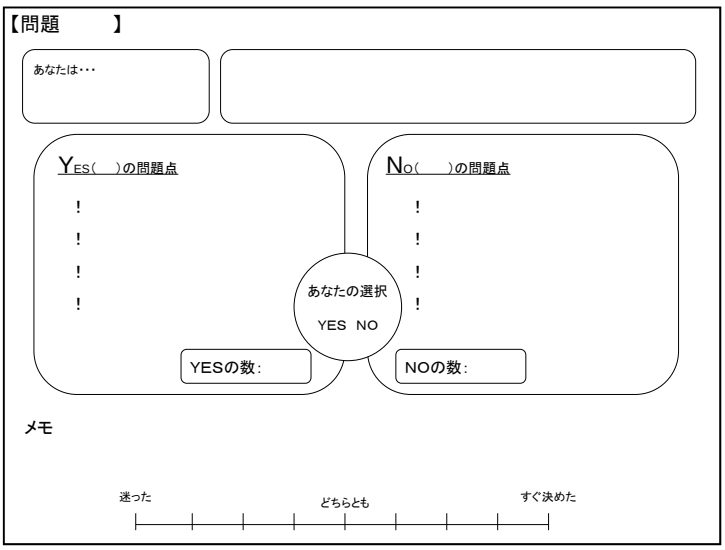
　その検討結果を各班から発表いただき、若干の振り返りを行いました。最後に各地域での検討を促すように地域検討用のシナリオ案を提示し終了いたしました。

　今回の各機関からのアンケートでは、当日の内容が盛りだくさんであったため、消化不良であった、事前も含め検討に時間が足りなかったというものが多く見受けられました。今回の訓練は「意識付け」と位置づけており、地域ごとの検討を進めていただくための一つのきっかけになればと考えておりましたので、この結果は、非常に望ましいものでありました。実際、各地域での検討も始まり、また最も縁遠いと感じているのではないかと思っていた市町村からも「マスクなどの備蓄はどう考えればよいか」などといった問い合わせもあっております。

（熊本県健康危機管理課　黒瀬琢也さん）

事務局より：熊本県では、クロスノートもオリジナルで作成されています。下に参考にご紹介いたします。

　通常のクロスノートの記載事項の他に、グループのイエスとノーの数を記録するところ、「その問題にどのくらい迷ったか」（迷った度）を書くところがあるのにご注目ください。



オリジナルクロスノートも！

問題を読んで。。。

カードオープン！

話し合いが弾みました。

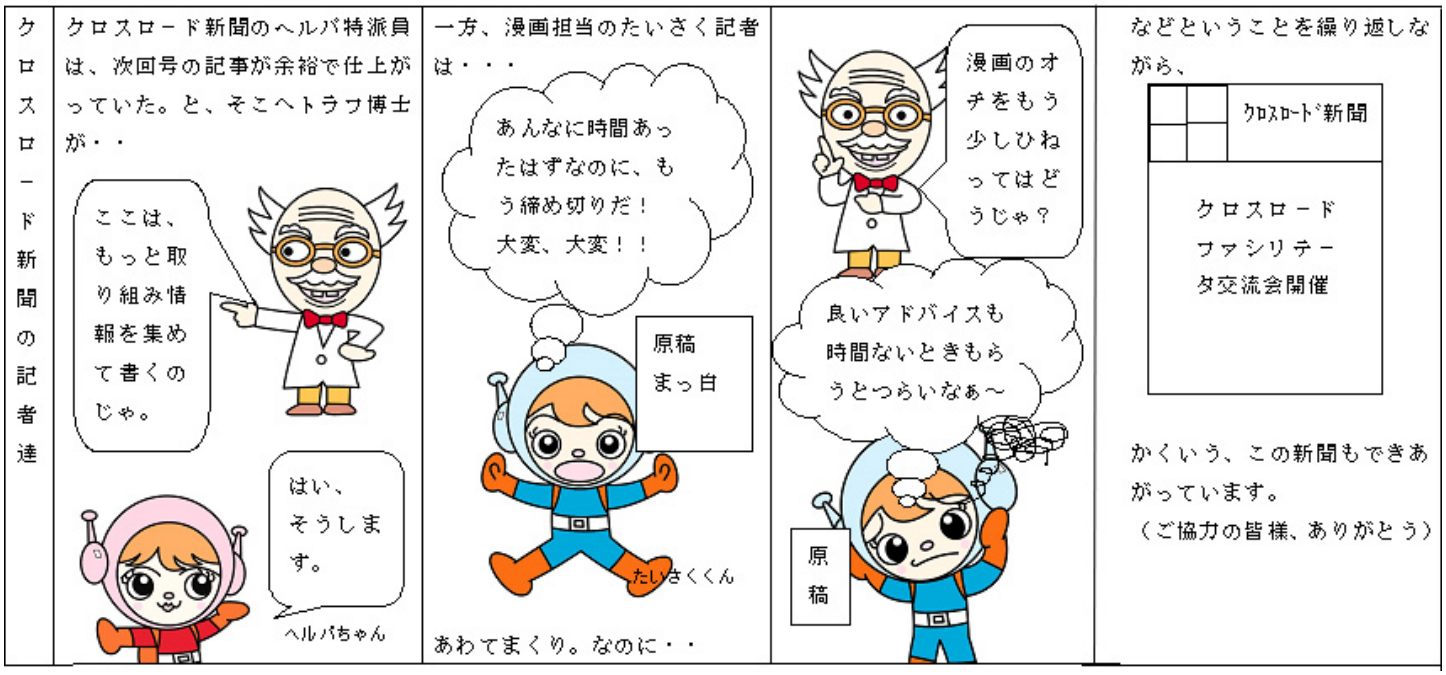
クロスロードドイツでの様子

ドイツエッセン市で開催された世界最大のゲームイベントSPIEL’06（2006年10月18日～22日開催）で、クロスロードを出展してきました。神戸編、一般編をドイツ語に翻訳し、すでにある英語版とともに、参加者に配布しました。会場では、教育関係者、大学生、それから小さい子供にも体験してもらいました。写真で様子を紹介します。何より座布団が好評でした。ドイツ語での紹介も以下のところにありますので、一度訪問してみてください。座布団がでかでか掲載されています。残念ながら、事務局の方ではドイツ語が読めないのですが。。。
www.spielbox.de/ix.html?/spielarchiv/sbmessen/spiel062.php4?vlg=tcr

写真上：会場を埋め尽くす人人人、、
写真右上：カートを持ってゲームを買いにくる人たちも多かったです。
写真右：ドイツ人の大学生がクロスロードをしてくれました。

クロスロード新聞の記者達

©やなせたかし



速報！
ファシリテータの集いが
開催されました！